

第12回 丸山地区及び和田地区学校再編検討委員会合同会議 会議録

日 時 平成25年10月21日(月)
午後7時から午後9時50分まで
会 場 丸山公民館2階 大会議室
出席委員 丸山地区19名 和田地区22名
欠席委員 金森委員 折原委員 街風委員
渡邊委員 二羽委員
傍聴人 1名

1 開会

2 検討委員長あいさつ

皆さん、こんばんは。天候が悪い中、御出席いただきましてありがとうございます。専門部会員の皆様方には、来年度開校に向けまして、検討いただき御苦労に感謝申し上げます。統合小学校の建設場所につきましても、今までの貴重な御意見を積み重ねて参りました。重要な議題ですので本日もよろしく御検討のほど協議をお願いいたします。

3 教育長あいさつ

こんばんは、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。本日も御協議のほどよろしくお願いいたします。

4 報告等

前回の第11回合同会議の検討結果について報告させていただき、その後に配付資料の確認をさせていただきます。第11回の学校再編検討委員会合同会議を平成25年9月5日に行い、この時の出席委員は、丸山地区21名と和田地区23名となっております。

議題に入る前に、それぞれの専門部会から検討状況を報告していただきました。

まず通学支援部会ですが、スクールバスの運行については、授業日と長期休業中は、学校が始まってから学校や部活動の実状に合わせて検討することとなっており、土曜日については、他地区との調整もあり運行しないとのことでした。現在、部活動の終わる時間に合わせて下校便の時刻表を作成しているとのこと。また、街灯については、設置希望場所の電柱番号を調べて申請することになっているとの報告がございました。その他の専門部会については、特に報告事項はございませんでした。

次に、議題の第1号「専門部会協議事項について」は、特に案件がございませんでした。

続いて議題の第2号「統合小学校の建設候補地について」検討をしていただきました。

これまで小学校の建設候補地については、「南三原小学校区内で検討する。」ということで検討を重ね

てまいりましたが、いろいろな考え方や思いがある中で、なかなか話がまとまらない状況となっております。そこで、事務局からこれまでの検討内容や経緯、またE地点を建設候補地として提案した理由などを説明させていただきました。それらを踏まえた上で、今後、建設候補地を選定するに当たり、基本的な考え方を整理し、共通認識を図っていただくために、大きく三つに分けて検討していただきました。一つ目は、「地域性や地域の思いを優先させる。」こと、二つ目は、「子供たちの安全・安心や将来を見据えた学校のあり方などを優先させる。」こと、三つ目は、「両者のバランスをとる。」こと、これらの考え方について、いろいろな御意見が出されましたが、引き続き検討することとなっております。

次に「(2) 専門部会の検討状況報告について」でございます。

事務局 初めに通学支援部会をお願いします。

部会長 通学支援部会は会議を開いていませんので報告はありません。

事務局 次に校歌・校章部会をお願いします。

部会長 校歌・校章部会は9月26日に応募作品を141点から、6点まで絞り込みました。なお、選考にあたっての留意点は、嶺南中学校「校章デザイン」募集要領に沿って行いました。6点まで絞り込んだものに補作（輪郭・線幅補正、色調補正、バランス補正等）を行い、さらに、校章に採用するデザインとして1点選ばせていただきました。

事務局 今回の報告に1点付け加えさせていただきます。部会長から「141点の作品の応募があった」との報告がありましたが、同じ作者で同じ作品があり、その1点分を欠番にしましたので、最終的に140点の応募となります。

事務局 ただ今、部会長から報告のありました校歌・校章部会について何か御質問等ございますか。
(質疑等なし)

次にPTA部会をお願いします。

部会長 特にございません。

事務局 次に資料等ございませんが、行事・カリキュラム・学用品について、現在までの進捗状況の報告をお願いします。

委員 制服について、10月9日に各小中学校の代表にお集まりいただきまして、制服検討委員会を開き、制服を決定しましたので、ここに用意しました。

女子のスカートは南房総の花をイメージしたカラーのピンクを盛り込み、男子のズボンには海の水色を生地に盛り込んでいます。その二つの色で南房総の海と花を表現しています。

そして、ブレザーは完全じゃないんですが、ボタンはこれからデザインし、胸のところには、ワッペンをデザインして付けることとなります。この制服の特徴は、襟の縁部分と袖の縁部

分が光り、車のライトが当たると動いた時に目立ちます。前から見た場合は、光る部分が少ないので、胸に光る生地を織りこんだワッペンを付けるようお願いしました。値段は、男子が34,100円、女子が31,900円、ネクタイを含めた価格となっており、この金額を上限とするようお願いをしました。

事務局 学生服等について、御質問等ございますか。

委員 皮膚炎を持っている子も最近は多いんですが、ワイシャツの生地は何の素材を使用していますか。

委員 ワイシャツについては、白であれば指定はございません。

委員 上着とズボン、スカートの素材は分かりますか。

委員 ポリエステルと毛で、ウォッシュャブルということで作っています。

事務局 ズボンは、ウールが50%、ポリエステルが50%の半々です。

委員 上着の方はもっと少なかったです、30%くらいだったかな。

委員 エンブレムと校章とのデザインの互換性というのはあるんですか。

委員 今、そのデザインをお願いしていますので、制服に合うデザインをお願いしています。

委員 校章とは全く関係なくデザインをされるということですね。

委員 いや、そうとも限りません。校章が出来上がってから参考にしてということ。

委員 とすると、この141番の校章のデザインだと詰め襟風なデザインで、ブレザーにはそぐわないかなという気が少しするんですがいかがでしょうか。

委員 校章を決めるにあたっては、ブレザーに合うかどうかで決めたわけではありませぬので、ですからエンブレムは、ブレザーに合うデザインをデザイナーの方で、嶺南中学校の校章とかいろいろなものを参考にして考えてくれると思います。

委員 校章は参考にするんだけど、規格みたいなものがあるって、それによりますと「嶺南」という字がローマ字で入って、必ずしも校章がエンブレムになるわけではなくて、「嶺南」という言葉が要は重要だとおっしゃっていました。

委員 ただ、「嶺南/REINAN」という文字が全部入るかどうかはデザインの関係なので分からないですよ。ただ、エンブレムとして分かるもの、それから、先ほども言いましたように、安全性ということから「反射」ということを考えてもらうことが一番大切だと思っています。

委員 そのまま、ならないから大丈夫です。

事務局 委員、よろしいでしょうか。

委員 はい。

事務局 他にございますか。

委員 男子のネクタイと女子のリボンタイはちゃんとした結ぶ物ですか、被るような物ですか。

委員 それについては、もう少し学校で検討させてください。ワンタッチの物もありますし、現在、男子が付けている物は、結ぶ物です。それから、女子はゴムみたいな紐みたいな、伸びる物です。ワンタッチの物もありますので、両方併用することも可能です。

事務局 よろしいですか。

(質疑等なし)

これより議事に入ります。設置要綱第7条第1項の定めにより委員長に議長をお願いいたします。今回は和田地区の委員長に合同会議の議長をお願いいたします。なお、本日、検討委員会に傍聴の申出がございましたので傍聴者に入らせていただきますが、委員長よろしいでしょうか。

委員長 傍聴人を許可します。

(傍聴人入場)

委員長 本日の出席委員数は、丸山地区19人、和田地区22人です。両地区共、それぞれ過半数に達しておりますので会議は成立いたします。それでは「第1号 専門部会協議事項について」を議題といたします。事務局に説明を求めます。

事務局 第1号専門部会協議事項でございますが、それぞれの専門部会で協議検討を進めている中で、検討委員会の判断が必要とされる案件がございましたら各専門部会から発言をお願いいたします。

(協議事項等なし)

委員長 次に「第2号 校章の決定について」を議題といたします。校歌・校章部会長に説明を求めます。

部会長 校章のデザインについて、141番の作品を嶺南中学校の校章に採用してよろしいかどうかを協議していただきたいと思います。

補足説明ですが、募集の状況ですが、小学生以下は48人で、作品数は48点。内訳は、南小が7名、丸小が22名、南三原小が10名、和田小が9名です。中学生は80名で作品数は80点。内訳は丸山中が77名、和田中が3名です。一般市内在住者は、7名で作品数は7点、一般市外在住者は、4名で作品数は5点。内訳は、愛着のある方3名、卒業生1名です。それで141番を選考した理由は、和田中の三つ葉のマークと、丸山中の鳥のマークがバランスよく重なっているということでふさわしいのではないかとということ。2番目に、デ

デザインがすっきりしていて、ボタンなどにも使いやすいのではないか、あと色調が、山の緑と海の青など地域性をアピールできることで141番のデザインに決定させていただきました。なお、応募者のデザイン作成趣旨ですが、「丸山中学校の鳥と、和田中学校の三つ葉を組み合わせ、二つの中学校の統合をイメージしました。また、その鳥で夢や希望に向かって羽ばたく姿をあらわしました。」ということです。協議をよろしく願いいたします。

委員長 　ただ今、校歌・校章部会長から新たな嶺南中学校の校章に関する説明がございました。委員の方々、御意見がありましたらお願いいたします。

委員 　ここに6点、デザイン画があるんですが、141番以外の5点は「嶺南」の文字が入っているんですが、このデザインで「嶺南」の文字を入れることはできないんですか。やっぱり校章って、中学がどこにあるかというのをイメージさせるので、「中」だけだと、せっかく新しく「嶺南」が出来たのに、ピーアールにならないと思うので、「嶺南」の文字は入れた方がいいんじゃないかと思うんですけども。

委員長 　今、委員から「嶺南」という文字が入っていた方がいいんじゃないかという御意見が出ておりますが、いかがでしょうか。

委員（複数） 賛成です。

委員 　これだと、分かる人は分かるんでしょうけど、要するにどこの中学だか分からないですね。私はそういう意味で今の意見に賛成します。

部会長 　学校の校旗を作った場合は、必ず「嶺南中学校」と入りますよね。そこにわざわざ校章として「嶺南」と入れる必要があるのかと。もっとシンプルに考えると中学生である校章としては、このデザインで最適ではないかということで、他のデザインは「嶺南」と入っておりますけれども、あえてこの141番を選定させていただきました。

委員 　シンプルということで141番とのことですが、古くからあるデザインを二つ重ねているので、全体にデザインが古いかという印象を受けます。せっかくブレザーになって、新しい雰囲気を作ろうとするのであれば、もう少し新しめのデザインでもいいかなと思います。

部会長 　校章は他の小中学校と類似したものにならないように、元々あるマークですが他にはない141番を選びました。似ていなければいいという訳ではないですけど、昔から使っていたものをあえて選びました。

委員 　これはシンプルですごくいいんです。ですからこれを採用するのであれば、ワッペンとかに「嶺南」という文字を、要するに、嶺南中学だと分かるようなデザインにしてもらえれば。

委員 　いや、だから確実にそうだとは言えないと思います。

委員 他にないデザインで141番になったとのお話しですが、141番は見たことがある気がするんですよね。僕は140番の方がここら辺ぽくっていいなと思ったんですけども。

委員長 いろいろ意見が出ましたが、校歌・校章部会長、これはまだ検討する余地があるんですか。

部会長 検討する余地はないです。強く推したいんで。選考の時に制服のワッペンまでは選考事由として入っていないので、ですからワッペンの方は制服の部会で「嶺南／REINAN」と入れていただけるような、その辺はデザインの方でお願いしたいんですけど。

委員 「嶺南」を基本に取り入れると言う話じゃなかったでしたっけ。違いましたっけ。

委員 何か、ローマ字で入れるって言っていたような気がします。

委員 校歌・校章部会の方が一生懸命皆さんで会議をして決めたことをないがしろにするつもりはないですが、ここに6点あるから、やっぱりどれがいいっていうのを皆、比べちゃうと思うんです。個人的には純粋に140番でもいいんじゃないかって思ったりもするんですけども。デザインをするのにお金が掛かるとか、いろんな細かい事も多分あると思うんですが、141番の「中(ちゅう)」っていうのを本当に中学校の「中」と皆が読んでくれるのか、「中(なか)」ですよね、これ。これが私は良くないんじゃないのかなと本当は思っています。

部会長 丸山中は鳥のマークに「丸山」と入っているんですけど、和田中の方は三つ葉のマークに「中」なんですね。それが重なっているんです。

委員長 いかがいたしましょうか。校歌・校章部会長の話しだと、これで決定だそうですけど、「嶺南」と入れた方がいいという意見の方が多々出ているようなんですけども。

委員 この校章は、普段は、中学生は制服とかには付けないんですよね。帽子も無いし。

委員 チャリのヘルメットですか。

委員 付いてないです。

委員 そうなってくると、学校の正門を入れてあるわけですけど、来る時には中学だと知って来るのだから、わざわざ「中」と書く必要もないし、名前を書いた方がいいんじゃないのか。

委員長 今、委員から、帽子も被らないし、校章も付けないんだから、学校の正面に飾られるだけで、中学校として来るのだから、「中」の字も入らなくていいのではないかと、それだったら「嶺南」の方がいいんじゃないかという御意見ですね。

委員 今、デザインで改良したらいいんじゃないかと意見があるんですが、以前、校名部会で応募をいただいて、協議しながら選んできたんですけど、やっぱり出品されたデザインとか文字を組み替えたり、アレンジしてみたりということは、応募いただいた人にも失礼だし、じゃあ、一体どの応募作を採用したんだと言い切れなくなってしまうんで、選ぶのであれば、こ

れならこれと一つ決めて、最良のものを選んだ方がいいと思います。

委員 公募したのであれば、今の御意見が真っ当だと思います。公募した以上はオリジナルを生かした状態で決定しないことには、公募の意味がないので。デザインに関しては、中学生の子供たちが身に付けて、魅力を感じるかが一番大きなポイントだと思うんです。そうした場合に今の二つの学校の校章を合わせたものに、子供たちが魅力を感じてくれるようであれば構わないと思いますが、ビジュアル的には、140番の方がいいと思っております。

委員 最初はじっくりこないかもしれませんが、外部の方が「嶺南中ってすごくいいよね」という雰囲気を出してくれるのは、子供たちの頑張りにかかっていると思うんです。140番って話があるんですが、これは大きく作る分にはいいのかもしれませんが、小さく作ると鯨か何か分からなくなってしまう心配があります。私は141番を推します。

委員 私も、校章部会が選んだ141番を推します。私は古めかしいのもいいんじゃないのかなと。両校を取っていただいたということにも意味があると思いますし、「中」というのもあった方がいいんじゃないかなと思います。

委員長 他に何か御意見ございますか。

委員 私はこの校章の選定の場にいたのですが、140番の鯨のも皆に結構人気だったんです。ただ、中学3年生を考えると、おひげの生えたお兄さんたちが、ヘルメットとかボタンに付けて歩くこととか、長く付けていくことを考えると、変な話、可もなく不可もなくというか、すうっと入ってくるようなものがという話その場では出ました。小学校の校章だったらすごくかわいくて、明るい感じがしていいなという話だったんですが。

委員 これを使うところっていうのは「校旗」と、あとどこに使うんですか。

委員 学校のマークとか、建物の正面に使うでしょ。ヘルメットはやらないって言ったけど。

事務局 あとは、体育館です。

委員 どん帳とか幕に使う場合もある。

事務局 今の丸山中にはどん帳はないですが、マークがそこに入っています。

委員 141番はシンプルでいいとは思っていますけど、そうすると、でかいところにやった時に、この「中」という文字がどーんと出てきちゃう感じがしているんです。ただ公募の場合は、このデザインを尊重しないといけないというのが皆さんの意見なので。これを採用すれば、この中の「中」が目立ってしまう気がして、140番も捨てる感じがしています。ただ、選考委員の意見も尊重しなければいけないとも思うんですけど。

委員 やはりデザインとして一番大切なのはオリジナリティだと思います。この140番に関し

ては、日本全国どこに行ってもないでしょう。そういった意味で私は140番を絶賛します。

委員 小さくなって、いわしになっちゃったらいけないじゃないですか。

委員 今までの話だと、校旗とか学校の正面に大きいものしか、取りあえずは想定がないみたいなので、かわいいとか、子供にどうかという部分で、大人が見ればかわいくていいじゃんと思っても、思春期の子供が見たら幼稚だと思うとかいろいろあると思うんですけど、ただ、和田の鯨、稲穂は丸山の稲穂をイメージしてデザインしてくれたと思うんですね。ものすごくこの地域を表現しているかなと。そういう意味ではすごくいいんじゃないかなと思います。

委員長 今、御意見を聞きますと、「141番がいい」という意見と「140番」と二つに分かれているみたいですが。

委員 141番はとってもシンプルでいいとは思いますが、私はやっぱり「嶺南」という言葉が入った方がいいかなと思うんですね。この中で「嶺南」という言葉が入っているのでシンプルなものを探すと47番になるのかなと思うんですが、いかがでしょうか。

委員 141番が推薦されているようですが、それは和田と丸山が合併して出来たことを、ある意味では象徴しているということだと思うんです。ただ、「中」という字が、ちょっと目立って、やっぱり和田と丸山が統合して新たに「嶺南」という今までどちらでもないものを作り出したので、それも象徴したいなと思うんです。そういう意味では、「中」のところに「嶺南」と入れたらいいかなと思うんです。やっぱり「嶺南」は今まで無いもので一番のシンボルですから、そういう意味ではそこをちょっと研究してもらえたらと思います。

部会長 先ほど、141番で「中」の文字を「嶺南」に変えたらどうかという話があったんですけど、事務局の方で、新たにデザインで「嶺南」と入れたものを作っていて、それでバランスとかを見ていただいてから、皆さんの意見を聞いた方がいいのか、それともこのままいった方がいいのかという意見だと思うんですけど、あとは応募者の許可を取らないといけないのか、その辺がちょっと分からないので、事務局にお聞きしたいんですけども。

委員 応募作品の中に、「中」のところに「嶺南」と書いてある応募作品は無かったですか。

部会長 このデザインでですか。

委員 そうです。

部会長 これで「嶺南」というバージョンはありませんでした。元のデザインが、この「中」の字の上が短くて下が長かったので、バランス的に悪いんじゃないかと何点か補作した中で、この普通に見える中の文字のデザインを選考いたしました。

委員 これをデザインした人に、伺いを立てないとさわれないと思いますよ。

委員長 それは当然だと思います。

委員 今、ここで、そういう話が出ているのならば、このデザインをした人に、「これを『中』じゃなくて、『嶺南』という名前に変えられないんですか」と伺ってみたらどうですか。

部会長 校章を募集するにあたって応募の要領の中に、「採用作品は補正を加えることがあります」とのことなので、その段階で私たちはここまでの補正が修正かなと思ったんですけど、もし文字を変えとなるとどうなのかなと思って。事務局でデザイン画を起こしてもらって、補正したものを作っただいて、それを皆さんに見ていただいた方がいいのかなと思いますけども。修正は可能だと思いますので。

委員 いや、これを作った人は、これが一番いいデザインだと思ったから「中」が入っているので、これ「中」を変えるということは、私の提案したデザインとはまるっきり意味が違ったものになってくるよとなるのか、補正がね。だから補正が構わないという話じゃないんですよ。全体的に見てデザインを考えている時点で、これを「中」ではなくて、「嶺南」のデザインに変えていただけませんかと言うくらいは原則いいんだけど、「嶺南」という名前に変えていいかと、バランス的な問題でもう一度変えることは可能なんですかというふうな伺いを立てた方が、後あといろんな問題においてもいいと思います。

委員 決まらなければね、両中学の生徒に決めさせてもらったらどうですか。やはり、校章部会か何かで決めなければいけないのですか。それが一番早いと思いますよ。

教育長 この「中」の字の問題ですけど、難しいのは、元々の和田中の校章の真ん中に「中」という字が入っているんですよ。そのイメージをこのデザインをされた方がどんな思いを持っているかということがちょっと難しいところでして。

和田中の方に三つの葉の合わさった真ん中に「中」と入っているのが和田中の校章ですので、やはり何らかの意図があってこの「中」を持ってきているのではないかなと思います。ですから、この「中」の字を小さくするとか、そういうことはデザイナーの意図には、その辺は許容していただけるかなと。ただ、この中の文字をそっくり変えることが果たして、このデザインをされた方がどうされるかということで、飽くまでも皆さん方がこの「中」は取って、「嶺南」でということが総意でしたら、私どもはもう一回、このデザインをされた方と話し合っ、それでもよろしいかと、承諾というんですか、その願いはしてみますけど。皆さん方の中でも、「中」でも、このままでもいいという方もいらっしゃる感じは話合いの中であっていただけなんですが、その辺いかがですか。かなりデザインされた方の意図とは違うことになる可能性も踏まえながら御意見をいただければと思います。

委員長 今、教育長からお話がありましたけれども、いかがでしょうか。

委員 取りあえずデザイナーの方にお伺いを立ててみて、それからまた検討するでいいのでは。お伺いして、それで駄目だということであれば、また考えて、余り時間もないですけども、そのくらいだったら大丈夫なんじゃないのかなと思うんですけども、どうでしょうか。

委員長 今、委員から、デザインを提出した方と話し合ってみて、了解を得られれば、その結果について、皆さんに諮ったらどうかという御意見ですが、いかがですか。

委員（複数） 賛成です。

委員長 それでは、そういうことで進んでもらえますでしょうか。

事務局 （了承）

委員長 ではそういうことで、教育委員会の方も了承をしましたので、進めることにいたしたいと思えますがよろしいでしょうか。

委員（複数） はい。

委員 「はい」とは言えなかったんですが、141番はデザイン的に非常にすっきりしていて、今、遠くから見るとすごくすっきりして、よく目立っていいんですね。反対に、140番は、近くから見ればいろいろ鯨とか稲穂とかありますが、遠くから見るとよく分からないんですね。それで、141番は和田中の元の校章、それから丸山中の鳩が合わさって、新しい嶺南中学校として、未来に向かって飛び立っていこうというような、そういうものを感じられるということで、「中」を「嶺南」に変えてしまうのは、補作というか補正じゃないですね。簡単に聞けばいいと言うけど、公募しておきながら文字を変えろというのは、非常に失礼なことなんじゃないのかなと思います。

委員 確かに校長先生の言うとおりにんですけども、「じゃあ変えろ」と言っているわけではなくて、強制ではなくて柔らかく、「できないでしょうか」とか、「嶺南の文字を使いたいという意見があるんですけどもどうでしょうか」というような。

委員長 「中」でいい人と、「嶺南」の字が入った方がいい人と、どっちが多いでしょうかね。

委員 今、140番もいいんじゃないか、141番もいいです、141番の中の字を「嶺南」にしたらいんじゃないかという意見が出ていますよね。要するに、まず「嶺南」という字を入れたデザインを、「こういうふうな意見が出ているんですが、どうですか」ということを作成者に聞いてもらって、その3つの中でどうなんでしょう。

委員 鯨にこれ見えないんだよな。

委員長 何にしても、141番のデザインを公募した方に、「嶺南」という字を入れていいのかどう

かお伺いを立てて、それからでないと話が進まないと思いますので、教育委員会にお伺いを立てていただくということで、それから今度はもう一度検討しようということで、いかがでしょうか。

委員（複数） 賛成、異議なし。

委員長 そういうことでよろしいですね。

委員（複数） はい。

教育長 確認ですけど、「中」を「嶺南」に変えては困るとなったら、このデザインは使わないということですね。デザインを公募していますので、公募の趣旨からいったら、デザイナーの意思を生かすことが大前提になると思いますので。このデザインについて、かなり思い入れがあり、「中」を変えたらデザイン全体の意味合いが違ってくるといことでしたら、もうこの141番の校章は使えないということになるんですけど、そういう覚悟をもって、再編検討委員会でデザイナーに聞くというのは、つまりそういうことだと思うんですけどね。

委員 私は、この「中」というのは、デザイナーの人を尊重すべきだと思います。多分、この「中」というのを考える時に、「嶺南」という言葉も入れて、縦にするか、横にするかとか、応募する時にバランスとかを見て考えていると思うんですよ。この141番の「中」のところに「嶺南」と入ったら、みんな同じ様な感じで、141番だけが、「中」と入っていて、これだけが目立つのでこれがいいと思います。

委員 これを使わないのではなくて、「こういう意見があって、これを変えたデザインではまずいんですか」とアプローチするだけだったら大したことはないのではないですか。それやって、イメージが変わってしまうんだと、デザインした人が言うなら従うしかないと思いますけど。

委員 さっきああいうふうに言ったんですけども、いろいろ伺って、公募しているんですから、それを「こういうふうに変えたらいかがですか」と言うことにちょっと抵抗を感じました。やっぱり、これはこれで141番はこのままで、私は賛成したいと思いますね。

委員 お話を聞いている感じからすると、141番のデザインに関して、既に「中」の字に補正が入っているということですよ。そんなにバランスを見て描いたのかなという印象をお話の中から受けたんですけども。もし、プロのデザイナーだとしたならば、「嶺南の文字にしてデザインすることはできますか」とお伺いを立てることはそんな大仰なことではないんじゃないかと思うんです。それでもし駄目だということで、どうしても「中」にしたいという話になってきたら、それはそれで、もう二度と使えないというわけではなくて、元のデザインを考えられた方が、やはり「中」でなければいけないという話になりましたと、その時に

またもう一度検討するでも構わないんじゃないかと思うんですがいかがでしょうか。

委員 いろんな観念で、この校章の中に「中」しか入っていませんけど、もし旗を作るにしても、「嶺南中学校」ときちんと入りますよね。だから、わざわざ、ここに一生懸命当てはめなくても、きちんと旗に「嶺南中学校」という文字が入るものであれば、きちんと表示されるということではないんでしょうか。あえてここに「嶺南」という言葉を一生懸命入れ込むよりは、大きいもの全てに、壇上にしろ何にしろ横にきちんと「嶺南中学校」と入りますよね。

委員 この141番の校章の応募用紙のデザインの趣旨はどうなっていたんですかね。

部会長 先ほども読みあげましたけども、応募者のデザインの作成趣旨は、『丸山中学校の鳥と和田中学校の三つ葉を組み合わせ、二つの中学校の統合をイメージしました。また、その鳥で夢や希望に向かって羽ばたく姿を表しました』。その通りのデザイン画ですね。

委員 委員長、先ほど、それで決定しますと言ったんだから、決定で次の方向に動いてもらわないと時間ばかりくっちゃう。

委員 私は、もしこの「中」を「嶺南」にしていいたと聞かれたら、嫌と言います。だって、この人は和田中の「中」を生かそうかなって一生懸命考えてくれたんですよ。きっと二文字よりも、和田中の「中」の方がフィットしたなと思って、応募してくれたんですよ。それなのに「嶺南」にしていいたと言われてたら、私だったらふざけるなと思いますよ。

委員 手元でデザインを見た時に、私も140番がいいなと思いました。先ほど、向い側の委員が頭上で校章が印刷されたものを掲げられた時に、やっぱりシンプルイズベストで141番の方がいいなと思いました。実際、学校の中では、和田中の場合は、校門を入れて玄関の上の高い所にあります。丸山中の場合も、体育館の所にあります。遠いところから見た時に、何が書いてあるのというようなデザインよりも、はっきり、くっきりの方がいいと個人的に思います。また、これから先、何に活用するかは検討中ですが、例えばボタンに活用する、あるいは、名札の名前を書く右側にこの校章が入ってくる、その時に細々したデザインだと、何がデザインされているのか分からなくなってしまうような懸念を個人的に感じています。

委員長 今、意見としてまとめますと、「141番のそのままのデザインでいいのではないか」という御意見と、『中』という字を『嶺南』に変えた方がいいのではないか」という御意見と、「140番の方がいいんじゃないか」という御意見と、「47番がいいんじゃないか」という御意見の四つの意見が出ているんですが、141番のそのままがいいのか、「中」を「嶺南」にした方がいいのか、他のデザインの方がいいのか、いかがでしょうか。

委員 字が入って一つのデザインだと思うんですね。だからやはり141番のデザインは「中」

という字のデザインだと思うので、これを変える必要はないと思います。ただ、ここで中学校の「中」だけでいいのか、「嶺南」の方がいいのか、その辺を議論した方がいいんじゃないですか。それで、よく旗とか言っているんですけども、一人一人胸か何か何かに付けるんですよ。この校章って。

委員 付けるかどうかは決まっています。

委員 全部、校章を付けるとは決まっていないんですか。皆が胸の所に付けるんだとすれば、やはり嶺南の第1期生とか第2期生ということで、思い出にも残るので、私は「嶺南」という言葉を使ったデザインの中から決めた方がいいのではないかなと思います。

委員 三つ、四つの意見が出ていますので、この場で決めてくださいというのは、なかなか決まらないと思うんです。ですから、繰り返しになりますけど、取りあえず141番をデザインした方に取りあえず聞いてみていただいて、それで駄目ならしょうがないので、再度検討していただいたらいいのではないのでしょうか。

委員長 今、いろんな意見が出過ぎてしまっているの、何にしても、この場で決定ということは無理だと思います。ですから、次の機会までに、141番のデザインの応募者の意見を聞いてもらうということと、その結果で、この後ということ以外ないんじゃないかと。今、141番でいいと決まれば、それが一番いいとは思いますが。どうなんですか。

委員 公募があって、このデザインが選ばれたということで、私、公募をするような芸術の分野をやっているんですが、要は審査の場によって、審査をしてもらっている所で、「この字が違っているからちょっと書き換えてきて」と言っているのと同じで、公平性が全く無くなってしまいうんです。何でもより良いものがあつたら、ちょっと変えてと、何でもありではないと思うんです。140点ものデザインが応募されてきて、部会の中でこれだという推薦があつて、これでどうかと言われて、それを変える、そのお伺いを立てることがいいか、悪いかといったら、私はいけないと思います。何でもありになってしまいます。

委員（複数）（拍手あり）

委員 そうだ。

委員 そうだと思います。

委員長 今の意見に、拍手が起きましたけどもいかがでございますか。もう、この応募のデザインの中で選んだ方がいいのではないかという意見だと思います。

委員 この中で決めるべきだと思います。

委員 応募者の意見を尊重してね。

委員長　　そういう意見が多数を占めているみたいですけども、何か御意見がありますか。

委員　　いや、要するに141番は元のデザインから、字が修正してあるんですよね。

委員　　「中」の字が違う。

部会長　　事務局の方で、今、141番の最後の補作してあるものと原作は手元にありますか。

委員　　取りあえず、原作が見たいです。

事務局　　これが原作になります。

教育長　　今、原作を元のオリジナルを持って回りますので。

委員　　「中」の字が逆なんだね。

委員　　ちょっと、遠くから見せてくれる。

委員（複数）　鳥に見えますね。

委員長　　今、応募の最初の段階のデザインを見たと思いますけど、いかがでしょうか。最初のデザインの方がいいんじゃないかという御意見が多々起きているようですが。

委員（複数）　最初の方がいい。（拍手）

委員　　原作を見せてもらって、私は原作に賛成です。

（複数から拍手あり）

なぜかといいますと、最初見た時は「中」が引っくり返っているんじゃないかと思ったんですが、遠くから見ると前に前進しているように見えるんです。尻尾の形に合わせて、わざとデザインしているんじゃないかと思うので、それは、尊重すべきだと思います。

委員　　これ見たら、ちょっとイメージ違う。

委員長　　では、委員会の方で一番最初のデザインに決定してしまっただけでしょうか。

委員（複数）　（拍手あり、異議等なし）

委員長　　これで決定したいと思います。「第2号 校章の決定について」は、最初のデザインで承認されました。では次に「第3号 統合小学校建設候補地について」を議題といたします。

事務局　　第3号の統合小学校の建設候補地については、前回の検討委員会で、建設候補地を選定する基本的な考え方ということを再度検討してほしいとお願いしたところですが、まだまだ皆さん方の考え方や思いが出尽くしてはいないのではないかと考えております。前回に引き続きまして、皆さん方から率直な御意見、考え方等発言をいただければと思います。

委員長　　ただ今、事務局から説明がございました。前回に引き続き基本的な考え方の方向性について、御意見をいただきたいと思います。委員の方々の御発言をお願いいたします。

委員　　前回いろいろ意見が出ましたけども、去年の9月13日に「統合は南三原小学校区内で検討する」と決定したのに対して、議長が何かこう「他に意見ありますか、ありますか」で有

耶無耶になっちゃって、何で検討しないのか不思議でなりません。それと、前回も言ったんですが、C地点は、避難地に1・2分で行け、道路の拡張もできている、問題は前回も話しが出たように盛土ですね。それでE地点というのは沼区の埋め立て地の延長で、杭打ちしても、もし地震が起きた場合、相当揺れたりなんかこれは想定で分かりませんが。事務局で15mという、市のマップでは9mがマックスとっているけれども、一応、それは尊重して15mと決まっているならば、埋め立てる事が何で支障があるのか、不思議でならないんですよ。それと、例として丸山の、大島の大震災じゃないけども、逆に津波が起きた場合、塩が入ったらひび割れて、鉄だったら錆びると、海砂は使わない、山砂なら使うと、セメントですよ違いますから。それとE地点の場合は遠いと。やはりこれから検討することに対しては、南三原小学校区内で検討してほしい。多岐に渡り検討すると、いろんな意見が出てまとまりません。だから何回やっても同じですよ。議長よろしくお願いしますよ。

委員長　　今、委員の方から南三原小学校区の方に決定という方向で賛成を受けているので、その中で候補地を検討すべきであるという御意見でございます。

委員　　4月に新委員が来て分からないで、議事録もこんなに厚いし読めと言っても無理かも分かりません。だけど引き継いでやってもらいたい。それともう2年間も当初から出ている役員、それはもう当然承知のことだと思います。何か個人的に洗脳されているんじゃないのかと不思議でしょうがない。南三原小学校区内で検討すると決定したのに対して、なぜまたいろんな意見をというのがおかしい話で、だからよろしくお願いします。

委員長　　これに対して意見ございますか。前回、三つの「候補地を選定するにあたる考え方の方針」ということで、そのことについて検討してきたわけでございます。「地域性や地域の思いを優先させるのか」、「子供たちの安全・安心や将来を見据えた学校の在り方などを優先させるのか」、あるいは「両者のバランスを取るのか」という、基本方針の中で建設候補地の選定にあたる基本方針というのを三つ。

委員　　私としては両方です。なぜならば、前々回かな、関東大震災の例も挙げましたよ。三原川と温石川のことを言うけども、よっぽど、丸山川に津波が来た場合、ひびでもいった場合は崩れる恐れがある。これは分かりませんが。決定したら何でそれで検討しないんですか、議長お願いしますよ。だから、何回やっても同じなんです。コスト面だって、道路拡張だとか、盛土の方が安いんじゃないかと思うね、杭打ちやったり。まずね、遠いですよ。本当、地域性なんて全く無視することになりますよ。

委員長　　委員の意見に対して何かございますか。

委員　　いやだからね、議長が変わったりしますけども、決定したならば、議長として、南三原小学校区内で検討するような意見を出させる方向性にもっていかないんですか。だから決まらない。またいろんな意見、意見言ったら、もっと切りがない。

委員　　この小学校の統合というのは5年以内にやらなきゃならないんですか。6年以内か、終了

しなければならぬですか。

教育長 ねばならないということは無いと思います。ただ、財政的には特例債とかそういう有利な財源が平成32年で切れますので、財源的には非常に1年ごとに厳しくなっています。ですから遅れば遅れるほど、新しい校舎を建てるとか、そういった事についての財政的な制約が出てくると思います。それだけの問題があると思います。

委員 それは、学校建設基金として積み立てておくわけにはいかないんですか。

教育長 それはちょっと無理です。学校だけではないですからね。他にもありますから。

委員 それは分かります。でも、学校を造るための予算を一応組んであれば、建設基金として積み立てておいて、通常の学校の建設の仕方なんですよね。

教育長 もう一つは、財政的なことを申し上げましたけど、そもそもこの再編をしなくては行けないということは、和田小学校、丸小学校が1学年10人を割るような人数になってきているというそういう状況もありますし、海拔の問題もありますので、いろいろと地区説明会やPTA説明会でお話をしてきましたけど、災害等でも安心できる所に、規模の上からいっても、いろんな教育が可能となる新しい学校を建てた方が良いだろうというのがもう一つの視点であります。ですから私どもとすれば1年でも早い方がいいというのが考えであります。

委員 丸山の場合においては、行政的に見た時に、小学校は耐震をやる、幼稚園は新たに造り上げたということは耐震の絡みは全部やってあるんですね。中学の時だって、結局は、耐震がボロボロで、いつきたら壊れるよという状況の中で造ってきたんですね。幼稚園にしても、造って8年か9年、南小の耐震補強も同じ位の年数だと思いますけども、そうやって児童のために結構やってきているんで、今、飽くまでも和田だ、丸山だと綱引きをやるならば、もう少し現状のままですぐに始めなくてもいいんじゃないのかなって感じがするんですが。

委員 先ほど「お金の問題」という言葉が出てきたんですが、いずれ子供たちの人数は更に少なくなってきた、小中一貫教育まで視野に入れなくては行けないとなった時に、お金の問題をまず考えないといけないのであれば、近くになってきてしまうのではないのでしょうか。違う所に建てて、更にもう一度ってなった時の金銭面を考えるのであれば、やっぱり近くで小中一貫まで狙った所で中学校の側にとりまらざるを得ないのではないのでしょうか。

委員 前回も申し上げましたけども、平成24年9月13日に、議長の方で「南三原小学校区に決定しました」という議事録があります。それについて、南三原小学校区の中で教育委員会がE地点を推薦したわけですね。それについてもうちちょっと議論して、それが駄目であれば、順序としてC地点というかたちになると思うんです。C地点が駄目だったら、今度はまた別の考えをするというかたちでまとめていかないと、全然固まらないですよ。その辺を議長にお願いしたいと思います。

委員長 今までの、「南三原小学校区内に建設する」ということで、意見はまとまっていると私は理解しております。ただE地点ということで、いろんな議論が出てきているというのが今の段

階だと思うんですよ。

教育長 9月13日、日付はちょっと分かりませんが、私どもがいただいた文書での決定も、「南三原小学校区で検討する」ということが決まったわけですし、ですからその後、私どもも、南三原小学校区で検討した中で、今までも何度も申し上げますけど、いろんなPTA説明会、地区の説明会等で説明をして、御意見をいただいた中で「安全・安心」というものが一番大きい、そういうものを観点にして決めたのが「E地点」であります。私どもが提案しているのはE地点だけですので、E地点で皆さん方に検討していただいており、その後に違ったC地点が出てきて、今もその検討が続いているという認識で私どもいます。前回、もう一回、何を最も大事にするのかと話し合っていたいただいたのは、最終的に建設場所を決めるのに、一番大事にすることは何なのかということをもう1回、皆さんで議論していただいて、同じ思いを持って決めていただきたいということで、前回の会議をお願いしましたので、今回も引き続いてその流れの中にあると私ども考えております。

委員 事務方で、C地点が低いと言うけれども、盛土は全然考えていないんですか。

教育長 根本的なところでお話ししていただきたいとお願ひしているところで、C地点についてお話しするのはちょっと本意ではないんですが、C地点については、盛土云々の話しではなくて、盛土をしても15m、再三出ていますように、「15mで本当に安心なのか」、「その後の二次避難はどうするんだ」とか、そういったような議論もこれまで出てきているわけです。それで、あそこに保育所、幼稚園、小学校の建物を建てて、15mの高さの所で二次避難は裏の峯山ですか、そこに逃げれば安全だという話も聞こえてきますが、私どもの立場とすると、例えば、この前の大雨の時に地震が起きる可能性もあるわけです。あるいは雨が降らなくても、地震があつて、白渚の山が崩れたりしたこともあったわけですけど、そういう中で0歳児からの子供たちをその峯山に避難させるというような前提であそこに建てることは、私どもとしてはちょっと提案できないというのが、C地点に対する考えです。その後、C地点に改めて何回か行ったんですけど、あそこに新しく家を建てた方が大分いらっしゃいます。あそこの所に盛土をして、更に3階建ての校舎を建てた時にあそこに住んでいる方が、果たして自分たちの住んでいる所の環境の変化ですよ、あそこの峯金井の旧道の所に立ちますと下の方に海が見えていますけど、それを遮るかたちであそこに3階建ての校舎ができて、さらに南三原小学校のアンケートにもありましたけど、騒音だとかそういう問題がかなり予想されるわけですけど、そういったものを含めて、いわゆるC地点に校舎を建てるということはちょっと考え難いというのが現状私どもの判断です。

委員 道路端の方に建ってもそんな感じですかね。

教育長 そう考えています。

委員 民家にくっついてやれば、今、おっしゃることかと思うんですけどね。ただ言えることは、高いから安心ということは言えませんね。丸山中学校の近辺といつてもね、高いから安心と

いうことは言えませんよ。なぜならばね、地震と津波がきた場合に、土壌が下からあらわれ、海水が滲み込んで崩れるという可能性もありますよ。

委員 教育長の言葉尻をとらえるようで大変恐縮なんですけど、先ほどの教育長の言葉の中に、0歳児からというお話がありました。ということは、小学校の中に保育園も入るし、幼稚園も入るということで検討しなければいけないんでしょうか。それと、「15mでも心配ですよ」という言葉が出ました。では、何メートルの所に教育委員会としては建設したらいいんでしょうか。ちょっとその点が疑問になりました。それと3階建てという言葉が出てきました。3階建ての校舎を15mに建てたら、その3階の校舎の高さというのはどのくらいになるんでしょうか。それでも不安であるということであれば、南房総市で建設予定地となる所は山の上しかない気がします。それと、私が最初から申し上げました、中学校は丸山、小学校は南三原という意見で始まっていると聞いていますので、再度確認させていただきたいです。

教育長 一番最後の問題ですね、小学校、幼稚園については南三原小学校区で検討するというのが、この再編検討委員会の結論ですので、ですから今、検討しているわけですので。あとは、幼保一体化を進めていますので、当然、私も想定しますのは、幼稚園と保育所と小学校ということを考えております。あとは、「15mなら安心ですか」ということですが、それは私どもに問い掛ける問題ではなくて、この会議の中で「15mでも何かあったら誰が責任を取るんですか」とのお話も私どももいただいているわけです。いろんな説明会の折に、保護者の方がおっしゃっているのが、「15mよりももっと高い所」とおっしゃっているわけで、私どもは15mの所ということで、一応、公共の物を建てる時はそういう観点を持っています。それともう一点、3階建てということですが、何メートル云々ではなくて、あそこに建てるとしたら、やはり二次避難しなくても済むようなものとしては、最低3階建て位のものには建てないといけなかなという考えであります。それでE地点で3階建てを建てても、その議論の時にも、二次避難はどこにするんだと議論が出ていますのでね。ですから、教育委員会云々ではなくて、保護者の方々が安心できる高さというのは、やはり15mよりもかなり上のことを想定しているのかなというのが私どもの考え方です。

委員 その15mの根拠というのは、市の方からではなくて、この会議の中で父兄というか、地域の方が15m以上と出してきたと解釈してよろしいですか。

教育長 これは、委員は部長をやっていたから分かるでしょうが、市の方針として建物は15m以上の所と市で出したものなのです。

委員 私の記憶だと14mだったと。

教育長 では、その後です。

委員 ですから、何で15mなのかなと常々思っていたわけでした。

教育長 1月位にこの会議で提案しましたが、その時は確か14mで、3月には15mという考え方が出てきましたので。

委員 私の記憶では14mです。

教育長 だから、現職の時に15mに変わっていると思います。

委員 さっき教育長が「検討」という言葉を使ったんですが、これは議長の方で決定していると、「決定」という言葉を使っていますので、全員で決定したということなんですよ。「南三原小学校区に決定」ということで使っていますね。9月13日の22ページに書いてあります。

教育長 「建設を決定する」というような文言が出てくるかもしれませんが、私の方で何度も「検討するということ」ということで確認しておりますので、議事録の方は確認しますけど。

委員 9月13日の議事録の22ページに書いてあります。

委員 検討するを決定するとちゃんとうたってあるから。

教育長 平成24年10月22日の再編検討委員会で再編方針案ということを決めていただいて、平成24年11月の内容を文書で基本的事項ということの「(2) 統合幼稚園と小学校の位置について、南三原小学校区内で検討する」ということで。

委員 だから、その前の平成24年9月13日の、会議録の22ページの上から2段目か3段目に書いてあるんですよ。それを言っているんです。11月じゃなくて9月13日です。

教育長 その後で、正式に文書として、そういうかたちで確認してありますので。

委員 そうすると、議事録はどうなるんですか。よく分からないですけど。だから私は重い話ですよと言っているわけです。

教育長 今、指摘のありました22ページの前のページの下の方の委員の発言が「今までの話の中で・・・取りあえず、第一段階として南三原小学校区で検討することで私は賛成です。」と、そして、議長が「他にありませんか」という流れの中で、今、御指摘のような「南三原小学校区で設置するということによろしいですね」という言葉は出ております。ただ、この次の会議で正式に文書として、こういうかたちで、この再編検討委員会の基本方針はこういうことによろしいですねということを確認しておりますので、私どもとすると、あとの10月の、その会議の方が正式な決定というんですか、確かに今、御指摘のとおり言葉なんですけど、ただ、流れの中では、南三原小学校で検討するという流れの中での発言だということをお聞きいただければと思います。その後も、この会自体は、南三原小学校区で検討するというので、委員の皆さんが全員同じ思いで会議は進めていると思いますので御理解をお願いしたいと。

委員 やっているようには思えないんだよね。いろんな意見が出て、何か、だからしっちゃかめっちゃかになっちゃってる。だから、やけくそじゃないけど、解散しようかになっちゃうんだよ。これはもう議長がね、そういうようなこと言って、皆の意見を聞かないけれども、多岐に渡りいろんな意見を言ったら、本当さっき言ったように切りがないし、まとまらないですよ。だから4月からの委員さんが当初の問題意識を持って言うのは分かるんだけど、過ぎたような話しが出るわけですよ。

委員 先ほども言いましたけども、まず南三原小学校区で決まっているわけですから、E地点を教育委員会でも推薦してきたわけですから、それについてまず、良い、悪いを検討して、それで駄目だということであれば次のC地点等を検討ということで、それで進めていくべきじゃないかと思うんです。ですから、E地点では駄目だという理由を皆さんに聞いてもらって、それが駄目であれば次の段階に行くという話に持っていかないと、全くまとまらないですよ。

委員長 E地点については、今までいろいろな御意見が出て、それについて教育委員会からいろいろと説明をして、御了解を得ているものと私は解釈していますけども。

委員 ちょっと今話をもう一度お願いします。

委員 要約すると、E地点で決定していると解釈していると。

委員長 いえ、決定しているとは思ってはいないですけども。決定はまだしていませんよ。ただ、いろいろな意見が出て、それについて教育委員会で今まで回答をしていますよね。

委員 だから、一つずつ潰していかないと、あっちもこっちもじゃまとまらないという話をしているんですよ。E地点で、今までいろんな問題点も出ましたよね。電磁波の問題だとか、液状化の問題だとか、牛のふんの問題だとか、そういったものについて、ある程度クリアされているわけですよ。なぜそこで決められないのか。決められない理由を皆さんに聞いてもらって、そういうことが先じゃないですかということを行っているわけです。

委員 液状化の問題は、私はクリアしているとは思っていないんですよ。建物自体は今の技術ならそこに残ると思います。ただ、そこに接続する道路が行けるかどうか分からないと私は個人的に思います。あとE地点は、私もうろ覚えなんですけど、大雨が降るとこの沼に行く道は水があふれるんですよ。ハウスが確か水没しちゃうと思うんですね。あまり水はけが良くない地域だと思うんです。これはちゃんと調べていただかないと私も嘘を言ってしまうといけないので、そういう状態で、本当にそこに学校を造ると私はとてもとても言えません。

委員 液状化について、教育委員会のお話しにあったと思うんですけど、富浦でしたっけ、岩井でしたっけ、何か18mの杭を打って大丈夫だというお話を伺ったんですけど。

委員 建物は大丈夫ですよ。ただ、そこに繋がる道路が本当に子供たちを迎えに行けるのかという心配が。本当に親ですから皆心配だと思うんです。今回の大島の雨っていうのは、50年生きていて初めてだと皆さんおっしゃってましたよね。本当にこれからの災害を考えた上で、私たちは子供たちの命を守っていくということを、ここで議論するべきだと思うんです。地域が大切なのは本当に分かっていますが、私たちが本当に守るのは子供たちの命です。これだけは間違いないです。多分、皆さん自分が死んでも子供は守りたいと思うと思うんですね。本当に議論の論点がちょっとずれていると思います。

委員 今の排水の関係であふれるということで、対策が講じてありまして、その後あふれたということは聞いていないんですけど。要するに岩糸の原の水がほとんど、沼、松田の水路へ集まってくるということで、沼の方の幹線が詰まっております、それは掃除しています。そ

れと、沼の市道の構造を改良して、それ以降冠水したという話は聞いていません。この前の雨も冠水していないと思います。ですから、排水というのは、工事、工法によって改良できるものと判断しています。それと液状化について、前にもお話ししてあると思いますが、東北の大地震の時に市内で、道路と田んぼについて、そういう被害があった所は三芳と丸山の一部の所でそういう被害は確認しておりますが、その岩系の原と松田、沼では、亀裂が入ったとか道路が使いなくなったということは聞いておりません。

委員長 先ほど、委員の御意見でE地点について、まだ議論が出尽くしていないようなということで、何かありますか。

委員 E地点というのは、前に丸山中学校を建てる時も候補地になりました。2か所あって、どっちにするかってことで、交通の便等で現状になっています。というのは、新たな道路を造らなくていい、国道が2本繋がっている、いろんな面において便利である。これからは車の動きが激しいので、今、現状のE地点にいと大型バスが入っていくのに相当苦勞すると思います。だから道を造ればいいのか、そういうふうなべらぼうな予算を使おうという、予算が少なくなってくる中でそれは果たして現実的なのかという疑問を感じます。E地点はね。

委員 今、委員の方から命の大切さということで出たんですが、とっても長い間議論をしてきて、実は私も中学校は丸山に持ってくるんだと、だから小学校は和田地域にというようにね、やはり人間の道理として当然必要なことで、子供が大きくなった時にそういう話をするのも一つの教育だろうと思っていたんですが、実は和田小学校区の説明会の時に、議事録の中に書いてあるのを読むと、多分あれは母親ではないのかなと思うんですが、とにかくそんなことを言っているよりもより安全な所がいいと、少くく遠くてもその中の小学校のクオリティ、質の高い教育を受けさせてくれれば、子供は多少遠かったりしても、それはいい学校生活を送れるからということですね、丸山の母親が言っているのではなくて、和田地域のお母さんが発言をしていて、それは一人ではなくて、そういうことを、皆と話をしていましてということだったんです。それでね、私、とっても感動して、私もこういった場所に来るのには飽くまでも議論する時には子供の幸せを考えて出席をしているわけですけども、やはり本当の親ってすごいなと思ったんです。和田地区に持っていきたい中でも子供の命をしっかり守っているんだなと思って、その発言をここでした時にすごくブーイングを受けて、「じゃあ大井に持っていけばいいよ」というふうに言われて、そうなのかなあとも思ったんですね。その後にE地点という候補地が出て、これならば道理にも合うし、安全にもまあまあクリアしているので、両方うまくいく所でいいのかと思っていたんですが、ここにきて、大島のあんな事故で、インタビューに答えているあの人たちが、昨日運動会で一緒に踊りを踊っていた人が行方不明になっているということで、とにかくうちはどうでもいいんだ、命を大事にしたいということを行っているわけですね。そういった中でね、私、はっと思ったのは、小学校って大体3・4年生をイメージしていたんですが、幼稚園からちょっとお兄ちゃ

ん、お姉ちゃんになったくらいの1年生がいるんですよ。それからその、これから幼保一体化になっていくであろうとするならば、その小学校の近くに幼稚園、保育園が建つわけですよ。そうすると、手も足も出ない子たちが、そこにいるわけですよ。逃げようと思っただって自分の意思では逃げられない子がもし、命を落としたとしたら、それもここで話題になったと思うんです。「誰が責任を取るか」なんて。それは、市長が取るのどうのこうのって言っていましたが、でも私たち委員がね、やはりここに代表で来ている皆さんたちであるならば、人生が変わる位のショックを受けると思うんです。だからまず、やっぱり「命を大切にすること」ということを考えていかななくてはいけないと思う。和田の人間だったらどうかと考えましたよ。例えば丸山でも中学も和田に建て、小学校も和田に持っていくと、持っていくというもおかしな言葉ですけども、そうなった時に丸山地区としてどうだろうと思ったんだけど、いろいろな災害が起きている中で、私は、「より安全な所」と堂々と手を挙げて言えるなと思ったんです。それで、ここでちょっと発言をさせてもらいますけど、より安全、命を守るということを今一度考えて、どこの地区に持っていくということではなくて、より安全な所を選びましょうよ。それでより安全な所が地形の中で和田になれば、決して和田の人たちが努力をしていないということではなくて、地形の中の問題ですからどうしようもないわけですよ。ですから、地域あつての学校とか、学校あつての地域というのはとっても大事なことで、21世紀の学校を創り上げる中ではね、私はやっぱり命を一番大切にすることが必要なかなと思っています。ですから、丸山でなくてもいいんですけど、そういう所があるのが偶然丸山なので、丸山に生まれ育っている人間が言うと、反発をいただくかもしれませんが、私はそんなふうに思うんですが、皆さんはどうですか。和田地域の子供たちが、少子化の中で大事な大事な宝である子供たちが、また丸山の子供たちが、やはりより安全な所で質の高い勉強をしてもらい、いい環境の中でしてもらい、E地点もいろいろと電磁波とか牛のふんだとかの問題がありますから、より環境のいい所ということも含めて考えて、どうなんでしょうか、中学校の近く。ただ私は、一貫校というのはちょっとまだ分からないんですけども、そんなふうに思います。

委員 委員の言うことはもったもたである、安全・安心っていうのはもったもたなことですよ。例の福島、防波堤やっただって、あれが壊れて、川を遡ってきちゃったわけだから、ここだと全然地形が違うわけ、だから事務局が15mと設定したの。それとあと、事務局が作った条件、通学に便利だとか、徒歩が多いとかそういう条件がなければね、本当に環境のいい山の平地みたいな所に、前に一回、例を挙げて言ったんですけど。だから全部が全部ね、ベターな条件というのは有り得ないと思いますよ。それこそ、安全・安心は分かるんだけど、極端な話、丸山に持っていつちゃったら和田地区は疲弊しますよ本当に。これは冗談じゃないですよ。だから、地区の人たちに聞いても同じ意見ですよ。

委員 和田小の話が出ましたので、発言させていただきます。和田幼小のPTAの役員の中で話

をした結果としましては、やはりE地点が一番中途半端であるし、想定外というものを皆さん心配されています。想定外のもの came 時に本当に15mでいいのかということもまだにあります。どこまで上げればいいのかということに関しては、それなりに皆で覚悟を決めて話をしましたが、和田地区内であるならば、やはり小川のカーネーション団地の辺りが一番安全ではないかと。あそこは、2.7mの線路がありますので、ある方が資料を調べてくれたんですが、最近のバスは、30人乗りくらいで高さとしては2.7m以下です。なので、もしバスを購入していただけるのであれば、小川の辺りまでバスで通学することも可能になるのではないかと意見が出ています。C地点に関しましても、やはり高さ的に低くなっていますので、丸山の方々と一緒になるとすれば、丸山の方々の気持ちを考えれば、そこから下に降りてくることには非常に不安を覚えるだろうと思いますので、小川くらいの高さが、やはり両方の学校で安心できる高さではないかというあたりで意見がまとまっております。

委員長 御意見を聞いておりますと、まだ方向性についてばらつきがあるような気がいたします。次の会議で一人ずつ意見をお聞きして、決定したらどうかと思いますがいかがでしょうか。

委員 提案ですが、既にこの委員の中での意見はこう着状態にあると思います。そういう意味で、和田・丸山以外の方で第3者的な立場の方を4名でも5名でも選任して意見を求めることができるのかどうなのか、そうした検討をすることも一つの方法じゃないかと思います。

委員長 いかがでしょうか。

委員 話は違うんですけども、今回の台風で三島海岸の砂浜が無くなりました。和田の方は遊歩道がありますが、あそこは全部竹があがってしまって歩けない状態です。ちょうど丸山川の下流で、さらにフラワーラインがあって、川が真正面です。前はちょっとカーブしていたんですけど、つながっている感じで、波打ち際が見えるくらい迫ってきています。それくらい地形も変わってきているということなのか分かりませんが、それこそ中学1年生が春に砂浜に行ってアートを作っているんですけども、そういう場所が今はないんです。それくらい、変わってきているんです。ひとつ検討理由に使っていただければありがたいです。

副委員長 会議の流れというか、方向というか、そういうのをちょっと確認したいと思い発言しました。先ほどから出ているように、方向としては、丸山地区からいろいろな意見が出たんですけども、和田・南三原地区で検討すると、そこに持っていくところでは了解したと思っています。その後、具体的にどこがいいだろうかとなった時に、事務局からE地点と出ました。だからE地点について、良い、悪いといろいろな賛否両論、じゃあE地点が駄目ならば、最初に決めた「和田に持っていく」ということをなしにして広範囲に広げて議論するのか、いや飽くまでもそれは大事にして、その範囲内でまず考えて、ただ具体的にまた提案された場合、更に進めていくと、ここで予期せぬことがいろいろ出るかもしれませんよね。その時に飽くまでも地域性にこだわっていくのか、ある時点でそれは無理ならば、もう一度立ち返って考えてみましょうってするのか、そこら辺が今、ちょっとはっきりしていないと思うんです。

今の時点では、やはり南三原地区に持っていくことは御破算にしようということにはなっていないと思うんです。だから、そこをまず大前提にして、E地点はどうか、E地点が駄目ならばすぐ丸山だとか、もっと安全・安心な所をもっていくのか、そこを確認していかないと、それぞれのおっしゃっていることは非常に分かるんですけど、会議の流れという点からいけば、やっぱり原則があるんじゃないのかなと思うんです。そういう意味では、まずやっぱりE地点はどうか、その他に、例えばC地点とか出ていますが、他にいい所があるのかどうか検討して、その上でじゃあどうしようかともう一度、皆さんで考えましょうかということになっていくんじゃないのかなと思うんですよ。そこら辺がいろいろ出ているから、それぞれが正しいことを言っている、方向性としては出てこないんじゃないかなと思うんです。今、さっき、委員長が次回のことをおっしゃっていましたが、そのところをE地点でいいのかどうか、さらに南三原地区で他にどんな所があるのか、その上で更にまた広げていくのか、そこら辺を絞って議論されて、そこで結論が出なければまたそこで考えるということをしていかないと、何をしたいのか分からないという感じになってしまうんですよね。いかがですか。

委員長　いかがでしょうか、今の御意見。

委員　今の意見に賛成です。

委員長　今の意見に賛成という発議が出ていますがいかがですか。

委員　よく分からないんですけど。次回にまずはE地点について、良いか、悪いかをひとりずつ意見を聞くということですか。

副委員長　決まっていれば、そういうことでしょうね。

委員　それで一人ずつ意見を聞いて、次にE地点じゃなかったらどこがいいのかということをもた決めていくということですか。

副委員長　そういうことになりますよね。そこでね、「どこがいいのか」の「どこ」をどの範囲まで広げるかという問題なんですよ。南三原地区に限定しないで何か別の基準で決めるのか、飽くまでも基本は南三原地区内なのか、そのところをはっきりしないと、いろいろな意見が出てきて、噛み合わないんじゃないかなと思うんですよ。

委員　多数決は取らないとずっとおっしゃっていたじゃないですか。

副委員長　採れないんじゃないですかね。

委員　一人ずつお話を聞くというのは、多数決に準じてないですか。

委員長　その中の意見を聞いた上で集約して、皆さんでそうしようとなっていくような方法にもっていったらと思うんですけどね。何にしても、E地点がいいという意見もあるでしょうし、いやE地点じゃなくて丸山の方にすべきだという人もいるかもしれない、そういういろんな意見を聞いた上で、皆さんの御判断を集約して決定していったらと思います。もう、意見は出尽くしたような気がするんですけどね。まだまだ議論の余地があるんでしたらまた別です

けども。

委員 何回も同じお話しをお互いに行っているんじゃないのかなと私は思うんです。前はああいふふうにしたのに、あれってどうか、これは本当に終わらないんじゃないかっていう思いがありました。

委員 だから前提に沿って、議長がしっかりやればいいですよ。何かまとまらない。今、おっしゃるようにいろんな意見が出て何をとっていいか分からなくなっちゃうわけ。

教育長 具体的な地点が出ますと、話合いが狭まってくるので、前回は何を大事にするかということで議論をいただいたわけですね。それで、概ねの皆さんが共通しているのは「安全・安心」ですよ。私どもが考えたのは、大変申し訳なかったんですけど「地域のバランス」を最優先しました。そして次に「安全」ということを考えました。「安全」というのは、私どもの考えとしましては、15mあれば津波の想定の高さからいって安全だろうという判断で、15mの高さを想定していました。ですが、いろんな説明会とか、あるいは前回の話合いでも皆さん方は安全のレベルでは納得していないということですよ。安心できる高さまで安心できる所を求めたいというのが前回のかなりの御意見をいただいた中にあるかと思います。前回、そういった言葉が詰め切れなかったんで、今日はその辺りを地点は抜きにして、具体的に何を観点に決めていったらいいだろうかということをお互いにある程度方向性を出して、今度はそれに基づいて、それぞれの具体的な地点を話し合っただけならばという考えを持っています。今の話合いですけど、次はそれぞれの地点を考えていこうということですが、私どものお願ひしたいことは、前回の話合いとか、今日、皆さん方の中からも出ていますけど、20年、30年、40年先の学校を建てるとしたら、何を一番大事にしていったらいいのかということに基づいて、次回話し合っただけならばありがたいと思っております。あと、まとまったら、さっきの委員から出ました意見に対して考えを述べたいと思います。

委員長 今、教育長から御意見が出ましたが、次回に譲って検討ということでよろしいですか。

委員 よろしいんですけども、それでまとまらなかったら、一時休憩したらどうですか。2年位。人が全部入れ替わるから。

委員 いろいろ、私は途中から入ったので経緯がよく分かりませんが、議事録等を見て、E地点を提案したわけなんですよ。E地点の皆さんの意見を聞くと、「余り良くない」、「いい」という意見もあります。そこが決まらないならば、もう一度差し戻して事務局にもう一度提案をしてもらって、それで議論したらどうかと思いますけどいかがでしょうか。

委員長 委員からの提案ですけども、他にも候補地を出してもらって検討したらということですけども。何にしても、今日は時間が経ち過ぎてしまったので、決定することはできないと判断します。次回、引き続き検討したいと思いますのでよろしくお願いいたします。

教育長 先ほどの、委員から外部からの要するに和田地区、丸山地区以外の方をお願いするというんですけど、一つは、そうなりますとこの再編検討委員会自体が当事者能力を失うこ

とになるとも思いますので、行き詰まった感じはしますけど、間もなくひらけるんじゃないかという思いを持っていますので、是非お願いしたいと思います。それと、もう一点は、この委員を選ぶことだけでも教育委員会は公平性に欠けるとか、皆さん方を選ぶのは、区長会の推薦ですとか了解をいただいて決めているわけですけど、それでもなおかつ、教育委員会が恣意的に選んでいるのではないかという指摘もいただいていますので、なおかつ外部の方を私どもの方でお願いするということが極めて難しいことだと思います。大変お疲れだと思いますけど、再編検討委員会を皆さん方をお願いして、更に協議を進めていただければ大変ありがたいと思っております。

委員 了解です。発言を撤回します。

委員長 次に、「第4号 次回の会議の日程について」を議題といたします。事務局から何か報告がございますか。

事務局 それでは、次回の合同会議の日程でございますが、今回、嶺南中学校の校章が承認されました。また、嶺南中学校の制服も新たに決定したと、今、報告をいただきました。校歌につきましても、作詞者と作曲者とで調整しながら、年内完成を目途に進められております。そして、スクールバス購入関係についても、9月議会で予算計上いたしまして、承認可決をいただいたところです。3月末までには購入ができると思っております。それからPTAについても、学校と保護者で十分調整が図られております。中学校統合に関する大きな項目等の協議検討については、概ね順調に進んでいると思われま。今後、入学説明会、あるいは在校生や保護者へのお知らせを予定し、手続きに支障がないよう進めていきます。また、統合小学校の建設候補地についてはまだ検討中ではございますが、今後の会議の開催については、検討委員の皆さまに御了解がいただければ、年度末までにあと2回位を目途にさせていただきたいと思っております。日程については、また執行部で調整させていただきたいと思っておりますが、できれば年内位に次回を決めていきたいと考えております。

委員長 ただ今、事務局から次回の会議開催日程について説明がございました。委員の皆様、御異議ございませんか。

(異議等なし)

それでは、第4号議案の次回合同会議の日程については、承認されました。本日の議事は終了しましたので、傍聴人は退席をお願いいたします。

(傍聴人退席)

その他についてですが、事務局から何かありますか。

事務局 嶺南中の校章デザインが決定となりましたので、作品の作者についてお知らせをさせていただきます。最優秀賞の141番については、立志哲洋さん、東京都江東区の方で、この方は南房総市に愛着がある方です。それから、7番は、福原あかりさん、和田町海発の方で、47番は、御子神愛美さん、丸山中学校1年生です。72番は、鈴木義己さん、丸山中学校

1年生です。118番は、遠藤優里さん、丸山の白子の方です。140番は、野村利弘さん、和田町下三原の方です。以上が6点の受賞者の皆さんです。

事務局からは以上です。検討委員会で様々な案件について協議検討をいただいております。各種団体の会議等で報告していただければと思っております。

以上で第12回丸山地区・和田地区学校再編検討委員会合同会議を閉会いたします。

(閉会)